第３学年Ｂ組 保健体育科 学習指導案

日時　 令和２年11月6日（金）５校時

学級　 上野原市立上野原西中学校

３年Ｂ組（男子１４名　女子１２名　計２６名）

場所　 上野原西中学校 運動場

授業者　 飯塚 裕太

１　単元名：E　球技　　ゴール型　サッカー

２　単元の目標

（１）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。

　ア　ゴール型では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開すること。

（２）球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

（３）技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

３　単元について

（１）教材観

手（腕）以外の部位でボールを扱い、ドリブルやパスなどの基本的なボール操作で得点を目指す「ゴール型」のスポーツである。主に足でボール操作を行うため、他球技と比較しても技能の習得には時間を要する。また、得点場面や得点に迫るシュートチャンスなどが少ないため、仲間との連携などの集団的技能や個人でのドリブル、パス、シュートなどの個人的技能を活かして得点を入れたときの喜びは大きい。ボールを扱わない時間が多くなり、その時間の判断や動きが重要になってくる。相手と接触する場面も出てくるため、楽しく安全に行うためにはルールやマナーを守り、相手を尊重し、仲間と協力していくことを学ぶことができる。高められる体力として、「瞬発力」「敏捷性」「巧緻性」「持久力」などが挙げられる。

（２）生徒観

　　　○生徒の実態

　　　3年B組（男子：１４名　女子：１2名　計２6名）

　本単元実施の前に、アンケートによる生徒のサッカーに対する意識調査を実施した。

（R2.9.28実施）

※23人回答

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| サッカーで面白いと  感じる場面がある。 | 男子 | 女子 | 理由  （どのような場面でそう感じるか。） |
| そう思う | ６ | ６ | ・ゴールを決めたとき。・パスをしたとき。・１対１の攻防で勝ったとき。・TV観戦など。・ボールを奪ったとき。・ゴールパフォーマンスのとき。・アシストしたとき。・リフティングが目標数を達成したとき。・みんなで協力して勝ったとき。 |
| だいたいそう思う | ６ | ５ |
| あまりそう思わない | ０ | ０ |
| そう思わない | ０ | ０ |
| **サッカーのルールを知っている。** | **男子** | **女子** |  |
| 知っている | ２ | １ |  |
| だいたい知っている | ５ | ４ |  |
| あまり知らない | ３ | ５ |  |
| 知らない | ２ | １ |  |

○サッカーの授業を行う上で大切だと思うことは何ですか。（複数回答可）※23人回答

意欲的に取り組む　　　　　　　　　１６名

仲間と協力して楽しく行う　　　　　２１名

ルール・マナーを守る　　　　　　　２２名

健康・安全に気をつけて行う　　　　２２名

自分の役割や責任を果たす　　　　　１５名

〈アンケート結果、昨年度からの考察〉

山梨県小中体連の研究指定校として、2年間指定の２年目となる。今年度に実施したアンケート結果より、サッカーに対しての苦手意識や不安は少なく、ゴールすることへの楽しさや仲間と協力してゴールを目指すこと、１対１の攻防へのやりがいを感じる生徒が多く見受けられる。

本単元では生徒たちが期待している、ゴールする喜びや仲間との協力を、授業を通して味わわせていきたい。また、基本的なボール操作や空間を意識した動きを目指していく中で、ひとりひとりの生徒に「できた」という成功体験を多くの場面で感じさせ、スモールステップを踏んでいく感覚を味わわせていきたい。具体的な取り組みとしては、教材の工夫、ルールや場の設定をすることによって、生徒の実態に応じた指導を行っていきたい。

昨年度の授業では基本的なボール操作を身につけ、ゴール前の攻防を展開していくことに重点的に取り組んだ。具体的には、場の設定により、ゴール前で空間をつくることやつくり出された空間を生かしていくことへの意識づけを行った。成果としては、空間をつくること、生かすことでゴールに結びつく成功体験を積むことができた。課題としては、場の設定がなくなると空間を意識した動きが見られない生徒がいたことである。

昨年度も同様のアンケートを実施したところ、多くの生徒が仲間と協力して、ゴールを目指すところにやりがいを見出していた。昨年度の授業を振り返ると、「何を」「どのようにしていくか」をより明確にしていくことがより深い学びにつながっていくと感じた。この課題を解決していく手立てとして、今年度は各チームにサッカー専用のホワイトボードを配布することで、お互いの気づきを共有し、可視化することによって、個人やチームの目標や課題を明確にしていきたい。そして研究の主題である「ともに学び合う体育学習」につなげていきたい。

新型コロナウイルスの対策を講じながらの授業になるが、ゲーム時の人数制限、話し合い活動時のマスクの着用、適切な距離を保つなどの対策にしっかりと取り組んだ上で、仲間と協力することで得ることのできる喜びを味わわせていきたい。

4　単元及び学習活動に即した評価規準

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **ア 関心・意欲・態度** | **イ 思考・判断** | **ウ 技能** | **エ 知識・理解** |
| 単元の評価規準 | ・サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。  ・勝敗などを受け入れ、ルールやマナーを大切にしようとしている。  ・記録や審判など、自分の役割や責任を果たそうとしている。  ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ・用具，服装などの安全を確かめたり，自己の体調管理に気を配ったりするなど，自他の安全に留意しようとする。 | ・サッカーの特性を踏まえて、技能の改善についてのポイントを見つけている。  ・技能、仲間との関わり方、安全上の留意点などの発見した課題を、合理的に解決できるよう知識を活用したり、応用したりしている。  ・自己の課題について、思考し、判断したことを、言葉や文章などで表したり、他者にわかりやすく伝えたりしている。 | ・基本的なボール操作である、ボールを「とめる」「ける」「はこぶ」などの操作ができる。  ・ボールを保持していないときに、空間を作りだすことができ、またその空間を使うことができる。  ・相手をマークするとともに、危険な空間をカバーする動きができる。 | ・作戦、戦術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。  ・サッカーに関連した体力の高め方について、学習した具体例を挙げている。 |
| 学習活動に即した評価規準 | ①サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。  ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ③自己の体調管理や用具の取り扱いに気を配ったりするなど，自他の安全に留意しようとする。 | ①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技能の習得に適した練習方法を選んでいる。  ②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。  ③自己のチームの課題にあった練習方法や作戦・戦術を選択し、仲間に伝えている。 | ①基本的な「とめる」「ける」「はこぶ」などのボール操作ができる。  ②ボール保持者と相手の位置関係を把握し、空間をつくり、空間を使うことができている。  ③相手をマークするとともに、空間をカバーすることができる。 | ①作戦、戦術の名称や行い方の例について、学習した具体例を挙げている。 |

5　単元の指導と評価の計画

　　※別紙参照

6　具体の指導内容及び学習活動に即した評価規準

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **観点** | **サッカーについての**  **関心・意欲・態度** | **サッカーについての**  **思考・判断** | **サッカーについての技能** | **サッカーについての知識・理解** |
| 第  ３  学  年 | 【指導内容】  ・人には誰でも学習によって体力や技能が向上する可能性があること。  ↓  【評価規準】  ①サッカーの学習に積極的に取り組もうとしている。  ・体力や技能の程度、性別に応じて自己に合った課題の設定や挑戦を認めようとすること。  ↓  ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。  ・自己の体調を管理し、用具の取り扱いなどの安全に留意すること。  ↓  ③自己の体調管理や用具の取り扱いに気を配ったりするなど，自他の安全に留意しようとする。 | 【指導内容】  ・技術の名称や具体的な練習方法などの資料とその活用方法の提示。  ↓  【評価規準】  ①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技能の習得に適した練習方法を選んでいる。  ・課題解決学習やゲームの場面で、学習した安全面の知識を活用する場面の設定。  ↓  ②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。  ・学習課題の取り組みから課題を発見したり、他者へ伝えたりする場面の設定。  ↓  ③自己のチームの課題にあった練習方法や作戦・戦術を選択し、仲間に伝えている。 | 【指導内容】  ・インサイドでボールをとめ、狙ったところにけること。  ・相手に取られにくいところにボールを置き、はこぶこと。  ↓  【評価規準】  ①基本的な「とめる」「ける」「はこぶ」などのボール操作ができる。  ・足元ではなく、空間でボールを受けること。  ・自分や仲間が空間でボールを受けるための空間を作りだすこと。  ↓  ②ボール保持者と相手の位置関係を把握し、空間をつくり、空間を使うことができている。  ・守備の原則を意識し、マークすること。  ・マークを外して、仲間をカバーすること。  ↓  ③相手をマークするとともに、空間をカバーすることができる。 | 【指導内容】  ・ゲームの状況に応じた、作戦・戦術の提示。  ↓  【評価規準】  ①作戦、戦術の名称や行い方の例について、学習した具体例を挙げている。 |

７　本時の展開（第５時／全１０時）

（１）本時の目標

　　・仲間と協力して、チームの危険な空間をカバーしていこう。

（２）本時の学習評価

　　・相手をマークするとともに、空間をカバーすることができる。

(技能)

（３）準備

〈教師の準備〉・ボール・マーカー・ホワイトボード・ホワイトボード用ペン・ストップウォッチ

・ビブス・笛

〈生徒の準備〉・学習カード・筆記用具

（４）　展開

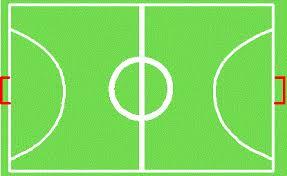
|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動・内容 | 〇指導上の留意点 |
| は  じ  め  10  分 | １　集合・整列・挨拶  ２　準備運動  ３　本時のめあてを確認し、授業の見通しをもつ  課題：自分のマークを外さずに、空間をカバーしていこう。 | 〇競技特性に適した準備運動を取り入れていく。  〇前回までの復習と本時の学習内容を確認させる。 |
| な  か  35  分    な  か  35  分 | ４　マークの原則について考える。  ・ホワイトボードでマークの原則を確認していく。  ・５～６人のグループで実際に原則に則ったポジションを確認していく。  マークの原則  ・ゴールと相手を結んだ線上に立つ  ・インターセプトを狙うことができ、裏がとられない位置  ５　２対２の場面をつくり、マークとカバーの役割について考える。※４コートで実施  ・なぜ守備をするのか考える。  ・マークしている相手がボールを保持している時と、味方のマークがボールを保持している時のポジションを確認していく。  チャレンジ＆カバー  ・チャレンジ＆カバーができる位置  ※チャレンジ…自分のマークがボールを保持したときに寄せること。  カバー…仲間が抜かれたときなどに、自分のマークを外して、助けにいくこと。  ２０ｍ  カバーできる。  寄せれる。  サッカーボールのイラスト  ２０ｍ  ６　ゲーム（５対５）　６分×２本　休憩５分  ※２コートで実施  ・マークの原則に則ったポジションの中で、空間のカバーもできるポジションをとる。  ・試合の合間の時間で、仲間同士で気づいたことを共有していく。  4０ｍ    ２０ｍ | 〇各グループに経験者を配置し、スモールティーチャーとして活動できるグループ分けを行う。  〇マークの原則を確認し、プレイ中の生徒にアドバイスができるよう支援する。  〇ゴールを守るために守備をしていることを確認していく。  〇個人やペアで考え、確認していくが、グループ全体でも確認させる。  〇コートの外にいる生徒は、マークの原則を意識させ、仲間にアドバイスをさせる。  〇原則の理解不足なのか、理解しているがポジションを上手くとれないのかを把握した上で、的確な支援を行っていく。  〇生徒の実態に応じてコートの広さはマーカーで調整していく。  〇各チームに経験者を配置し、スモールティーチャーとして活動できるチーム分けを行う。  〇休憩の際に、各チームでホワイトボードを活用し、可視化した中での学び合いを行わせていく。  〇仲間と意見交換を行うことによって、課題を明確にさせる。 |
| おわり  ５  分 | 7　本時の学習の振り返り  ・学習カードでの振り返り（個人）  ・全体での振り返り（各グループ）  8　整列・挨拶 | 〇本時の学習を振り返り、明確になった課題について次回以降の授業で取り組めるよう見通しをもたせる。 |

（５）課題に対する評価指標（身に付けさせたい資質・能力を可視化する手立て・基準）

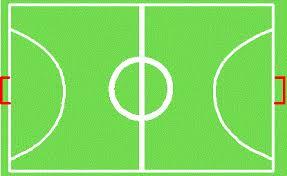
|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 十分満足できる（A） | おおむね満足できる（B） | 努力を要する（C）※支援 |
| ５対５のゲーム形式の中で、自分のマークへのチャレンジと味方のカバーができるポジションをとることができる。 | ２対２の中で、自分のマークへのチャレンジと味方のカバーができるポジションをとることができる。（５対５のゲーム形式では不十分である。） | マークとカバーのポジショニングは理解しているが、２対２の中で、自分のマークへのチャレンジと味方のカバーができるポジションをとることが不十分である。※人とボールの動きがゆっくりの中で確認していく。 |

8　場の設定

**ホワイトボード**



２０ｍ



2０ｍ

4０ｍ

チーム

待機場所

チーム

待機場所

4０ｍ

チーム

待機場所

チーム

待機場所

**学習カード**

組　氏名（　　　　　　　　　）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ／  （　　）  1/10 | 【本時のテーマ】２年次の復習/3年次の学習の見通し | | |
| 【２年次】 | | 【３年次】 |
| ／  （　　）  2/10 | 【本時のテーマ】ボールを「とめる」「はこぶ」「ける」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  3/10 | 【本時のテーマ】ボールを「とめる」「はこぶ」「ける」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  4/10 | 【本時のテーマ】空間を「つくり」「つかう」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  5/10 | 【本時のテーマ】「マーク」と「カバー」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  6/10 | 【本時のテーマ】「戦術」と「作戦」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  7/10 | 【本時のテーマ】自チームに適した「戦術」と「作戦」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  8/10 | 【本時のテーマ】チームの「強み」と「課題」 | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  9/10 | 【本時のテーマ】協力してリーグ戦を戦い抜け！ | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |
| ／  （　　）  10/10 | 【本時のテーマ】チームの活動を振り返って | | |
| 【感想】 | 【仲間へのアドバイス】  【仲間からのアドバイス】 | |

**～ Memo ～**

|  |
| --- |
| 練習メニュー・ポイントなど  《戦術・作戦などの確認、メモ》 |